

普及活動情勢報告（令和3年2月分）

高吾農業改良普及所

徐々に換気してニラの葉先やけの対策をしましょう！



2月9日に、コスモスニラ生産部の目慣らし会を実施したところ生産者10名の出席があり、葉先やけや切った葉先の程度による等級分けについて意見を交換しました。

農業改良普及所からは、かん水、換気の仕方や電照の終了など2月以降の栽培管理について説明しました。また、春以降にアザミウマが増加しやすいため、2月中にかん注処理を行うことを強調しました。生産者からは「電照をかけすぎて倒伏したので、もっと早く短くするべきだった」などの反応がありました。

農業改良普及所では今後、葉先やけ対策とアザミウマ対策を重点的に指導し、収量品質向上を支援していきます。

別枝集落の活性化に挑む



1月29日、仁淀川町別枝で地域活性化のための打合せ会を行いました。参加者は別枝上及び下集落の有志と関係機関で12名でした。

参加者からは「地域が生き残るためには、集落協定を活用して茶栽培を継続させ、地域の特徴を活かした方法で外貨を稼ぐことが重要である」という意見が出ました。そのため茶オーナー制度や秋葉神社とタイアップしたギフト販売について、集落の同意を得ながら核となる組織が担っていくことを検討することになりました。

農業改良普及所ではこれからも地域活性化に向けた組織活動を支援していきます。

サンショウ樹形の早期養成に向け、剪定講習会を実施



1月29日、越知町でヒューマンライフ土佐が企画するサンショウの剪定講習会が開催され、25名が参加しました。

農業改良普及所は前年剪定を行った見本樹の一年間での変化について解説し、着果枝の育成法について説明した他、若木時の主枝の育成と不要枝の剪定について実演を行いました。

若木の養成については初めての講習内容であったので、生産者からは非常に参考になったとの感想がありました。

農業改良普及所は今後もサンショウの生産向上技術の普及を行っていきます。

トマト生産法人へのGAP研修会を開催しました



2月9日、日高村のJA出資型法人(株)コスモスアグリサポートに対して、GAPの研修会を実施しました。
農業改良普及所からはGAPに取り組む意義や必要性、JA高知県仁淀川地区管内のGAPの取組について説明しました。
また、現地確認での指摘箇所の改善について、リスクの高さや優先順位を意識して取り組むよう指導しました。
参加した法人職員からは「GAPを意識しながら、業務に取り組みたい」との声が聞かれました。
農業改良普及所では、これからもGAPの取り組みが継続されるよう支援していきます。

アシストスーツで労力軽減



1月25日、JAコスモス佐川支所苺部会の月例会で部会員13名を対象にアシストスーツの紹介と実演を行いました。
生産者は圧縮空気と特殊高反発バネを動力とした2種を装着し、コンテナや肥料袋を用いて実際の動きを確認しました。
参加者からは、「実際の農作業で着用して中腰作業が楽になるか試してみたい」などの声が聞かれました。
農業改良普及所では、今後アシストスーツの農家実証を行い、軽労化に向けた支援をしていきます。